

山びこ通信

12月号
2004.11.30

第10回 青春ライブ授業！



『ライブ・アラスカ！』
(第8回目)の授業風景

「君の好きなことはなに？」

僕の好きなことは、出会いです(笑)」

講師 青木信也(滋賀医科大学4回生)

日時 12月18日(土)

午前10時～11時30分

場所 第3園舎(つき組の部屋)

対象 中学・高校生・一般 / 入場無料

- なぜ「ぼく」が医学を目指すようになったのか？ その紆余曲折の中に中高生たちへのメッセージを込めて、お話していただきます。

第7回 山びこクラブ

だいさくせん じんち
「Sケン・ひまわり大作戦！(陣地あそび)」



前回来てくれたお友だち。
遊びにきてね！

日時 12月17日(金)

午後 4時～5時(暗くなるので30分切り上げています)

場所 ようちえんのお庭(雨天はひねもす部屋)

対象 小学生 / 無料(もちろん)

- Sケン…Sの字に、ふたつの陣地を作って、そのなかに宝物をおきます。宝物をとられないように、あいての宝物をとったチームが勝ち！
- ひまわり…SケンのS字を、「ひまわり」の絵にしたあそびです。
- 先生たちが小学生のときにはやったあそびです。チームワークをいかしてあそびましょう！(雨ならツリーかざりを「ひねもす」で作ろう！)

第6回 ミニミニようちえん



前回きてくれたおともだち。
あそびにきてね！

「クリスマスグッズをつくろう！」

日時：12月4日(土) 午前10時～11時00分

場所：つき組のおへや

対象：未就園児(年齢は問いません)とそのご家族

- おうちの人といっしょに、かわいいクリスマスカードをつくりましょう！

『伝統的英語学習法のめざすもの』

文章 / 山下太郎

私は今、「山の学校」で中2の英語クラスを担当しています。クラスを受け持ったとき、限られた時間の中で英語の何をどう伝えるか、思案しました。英語を教える切り口にはいろいろありますが、普段の試験対策につながるだけの場当たりの勉強ではなく、高校に入ってから、将来社会に出てからも役に立つような勉強を中心に進めていきたいと思いました。

ここで、中学で学ぶ英語についてふれてみます（あくまでも一般論としてお読み下さい）。今の教科書はその内容をだいぶ削っているとはいえ、英文法の基本を段階的に伝えようという意図は昔も今も変わりません。基本的な例文は200あるかないかです。扱う例文の難易度は語彙のバラエティで調整することになります。

たとえば、I love you.（私はあなたが好きです）も I admire you.（私はあなたを偉いと思う）も同じ例文に数えることができますが、語彙の点では love よりも admire のほうが難しいとみなされます。そして、この手の「難しい」例文はいくらでも用意することができます。

この「難しい」例文に接するのが高校に入ってからのもので、逆に言えば、今の中学の英語は極端に語彙を制限していますので、生徒たちが目先の語彙の多様性に目を奪われる心配はないということになります。しかし、これに油断して中学時代にまるで辞書を引かなくなると、高校に入ってから洪水のような語彙を前にして途方に暮れることになります。

こうならないためにも、中学時代から辞書はしっかり引くべきなのですが、教師としては単に辞書を引きなさいと指示するだけではダメです。一つ一つの言葉について、辞書を引きたくて仕方がない気持ちに導くのが大切です。その鍵となるのが、（今の中学で習得するはずの）文法の力ということになります。

たとえば、中学英語で学ぶ (1) He studies at school.（彼は学校で勉強する）は一見簡単に見えますが、school の前に at がついている点が重要です。逆に、(2) He studies English.（彼は英語を勉強する）の例文に前置詞はありません。前置詞の有無、言い換えれば文例パターンの識別能力が、英文法の力として常に問われるのです。

この力が本物なら、高校生が(3) I can't stand it. について「私はその中で立ち上がれない」とか、(4) He runs a small restaurant. について「彼は小さいレストランの中で走っている」などの誤訳は絶対にしません。かりに、stand=我慢する、run=経営する、という知識そのものではなくても、「it の前に前置詞がない。あれっ何か変だぞ？」という感覚が働くはずであり、その感覚に導かれてずっと辞書に手が伸びるでしょう。逆に言えば、この感覚（日本語の感覚でもある）こそ、英文法の学習によって自然に磨かれるものだということです（ちなみに先に挙げた (1) は SV、(2) は SVO の文型で、今ご紹介した (3) と(4)は、ともに(2)と同様、SVO の構文です）。

さて、本題に戻って私が今担当しているクラスの現状をお伝えします。クラスでは教材として市販の学年別問題集を使っています。学校の学習レベルより少し難易度の高い単語や構文も適度にちりばめられているので、辞書を引くタイミングには事欠きません。

1学期の間は、2年生の問題集と並行して1年生の問題集も使いました。1年生の学習はスイスイはかどりましたが、いつも完璧にできるわけではありません。間違ったら、その都度丁寧に辞書を引いていきます。10問中5つや6つも間違える問題集だとやる気を失いますが、中1レベルだと誰もが10のうち1つか2つ程度の間違いですみます（逆にそのレベルの問題集を選ぶべきです）。つまり、余裕を持って個々の間違いとつきあうことができます。

一方、2年生で学ぶ内容は、1年生の学習が前提になっているため、1年生の復習が終わるころには、生徒たちの正解率も俄然上がってきました（凡ミスが激減したということです）。また、文法的な未習事項や未知の単語に対しても、自分たちで辞書を引くことによって、どうすれば正解を得ることができるか、そのノウハウも徐々に身につけてきたようです。

実は、このノウハウの習得こそ、私がかつとも重視している英語学習のポイントであり、この問題解決能力そのものは英語以外の教科の勉強にも応用が利くのだ、ということを最後に強調しておきたいと思います。

第8回目(2004年10月29日)

講師:松本紀生

題名:『ライブ・アラスカ!』



夏は無人島の自然やクジラを、冬はマッキンリーのオーロラを十年近くも撮り続けている方が、今回の講師でした。

オーロラとマッキンリーの山とが同時に写せるポイントは「おそらくここだけ」という無人の雪原。そこで唯一、キャンプ地を設営する姿の映像が、印象的でした。

その松本さんにとっては、将来に迷う時期にふと手にした星野道夫の写真集が、アラスカ行ききっかけであったそうです。

しかし最初から、カメラの腕も、英語も、現地の交渉も、無人島や雪山での生活も、オールグリーンになってから、飛行機に乗ったというわけでは決してなく、そのほとんどが、後から身に着いて来たのだという点に、とてもスケールの大きな勉強を感じました。

中高生からも、質問がよく出されていました。感想の中にも見られますが、めいめいの心のスクリーンに、何か自分と響き合うイメージが駆け巡っていたようです。

この場を設けるスタッフとしても、中高生たちが生き生きと、将来への希望を吹き込まれている姿を見、とてもうれしく思える時間でした。(福西)

感想

最後のオーロラが一番でした。どれもやさしい色で、ただ驚くばかりでした。

アラスカの中でまわり一面雪に覆われた場所と一年中緑の場所があるなんて思わなかったので驚きました。今までアラスカのイメージというひたすら雪ばかりだと思っていたので、イメージが一変しました。森の中の写真を見たら、「これが人間の手が増えられていない森なんだなあ」と思いました。「ふかふかのコケの上で寝てみたい! 気持ちいいだろうなあ」と、コケが好きなので思っていました。

オーロラを見ていて思ったことは、「吸い込まれそう」と「誰かが地球を持っていくための風呂敷みたい」ということでした。(中3)

凶暴そうなクマがあんなにかわいい表情を見せるなんて驚きました。冬の夜のマッキンリー山は、なんだか地球じゃないみたいでした。同じ風景なのにあんなに表情が変わるのは見事でした。

もともと自然だったところに人間が入ったり住んだりするには、人間側に遠慮や配慮、気遣いが必要なんだなあと感じました。大自然や富士山の二倍の高さのあるマッキンリー山を見ていたら、人間のちっぽけさが身にしみた反面、「写真」という機械から生まれる松本さんのアラスカへの愛情と風景や動物の素晴らしさが合わさってとても感動しました。

松本さんのように、大人に近づいてから夢中になれるものを見つけれられて、「それ以外考えられない」と話されるのを聞いて、じつくりと、打ち込めるものを見極めて生きたいと思いました。

松本さんへのメッセージ: 松本さんの写真の中で私が一番好きなのは、夕日をバックにザトウクジラの尾がちらっと見えてる、少し切ないような写真です。今ごろも胸びれや尾ひれを、水面に打ち付けたり飛んだりしていると思うと、自然の力と、さびしさみたいなものを感じました。(高1)

クマがサケを取っている映像が一番心に残った。クマはすぐにサケを取れると思っていたのにあまり取れなかったのでびっくりした。

松本さんが一人で二ヶ月も無人島にいるのがすごいと思った。(中1)

やっぱりオーロラの写真がすごいきれいで最高だった。見た時、ため息が出るほど驚きました。

写真を見ていて、星空がとてもきれいなのに驚き、それと同時に行ってみたいという気持ちが生まれてきました。僕はかなり宇宙というか星というのが好きなんです。いわゆる天文学のほうに興味がありましてですね。ですからああいう星空はとても見たいです。ですので、いつか行けるようならやはり行ってみたいですね。

質問: 鯨のしおふき(?) って、かなりくさいというのを聞いたのですが、どうなのでしょう。(高1)

氷のブロックで作られたろうそくで、作ったインテリアみたいなものが、とても幻想的で印象的だった。

-40℃という極寒の地だが雪一面の景色を一度見てみたいと思った。

松本さんへのメッセージ: (おしっこが凍らないことについて) 液体は固体に比べてかなり冷えにくい(気体は、もっと冷えにくい)ので、しかも放射熱が膜を作ってさらに冷えにくくなるのでなかなか凍らないのだと思います。(高1)

次回 12/18 am10:00~11:30

「君の好きなことは、なに？」

僕の好きなことは、出会いです(笑)

講師: 青木信也(滋賀医科大学4回生)

面白い人です! 乞う、ご期待下さい!

「山の学校」スケジュールのご案内

——平成16年度・冬学期——（訂正版）

~~~~~クラス名~~~~~

| ●火曜日クラス | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 |
|---------|-----|-------|----|----|
|         | 7   | (休) 4 | 1  | 1  |
|         | 14  | 11    | 8  | 8  |
|         |     | 18    | 15 | 15 |
|         |     | 25    | 22 | 22 |

ことば高学年A・B（小5・6）  
かず中級（小3・4）

英語の基本（中1）  
英語の読み書き（高1～3）

日本語の読み書き（高1～3）  
数の世界（中3～高3）

（「しぜん」は冬学期休講。春学期から開講）

~~~~~クラス名~~~~~

| ●水曜日クラス | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|-------------|-------|----|----|
| | 8 | (休) 5 | 2 | 2 |
| | 15 | 12 | 9 | 9 |
| | * <u>22</u> | 19 | 16 | 16 |
| | | 26 | 23 | |

ことば低学年（小1・2）
ことば中学年（小3・4）

ラテン語講読（一般）

* お配りした表の 3/23 は誤植です。替って 12/22 にあります。申し訳ありませんでした。

~~~~~クラス名~~~~~

| ●木曜日クラス | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|-----|----|----|----|
|         | 9   | 6  | 3  | 3  |
|         | 16  | 13 | 10 | 10 |
|         |     | 20 | 17 | 17 |
|         |     | 27 | 24 |    |

かず初級（小1・2）  
かず上級（小5・6）

英語の基本（中2）  
数と自然（高1～3）

数の基本（中2）

ラテン語入門（一般）

~~~~~クラス名~~~~~

| ●金曜日クラス | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|-----|----|--------|----|
| | 3 | 7 | 4 | 4 |
| | 10 | 14 | (休) 11 | 11 |
| | 17 | 21 | 18 | 18 |
| | | 28 | 25 | |

ラテン語講読（一般）

授業料は、下記をご参照下さい。全額・分割をご選択いただけます。
分割の場合は、全額の1/4の金額を、各月の最初の授業日（目安）にお納め下さい。

授業料（学期全額×1ヶ月）

| 受講数
(一人) | 小学生 | 中学生 | 高校・一般 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 1科目 | 24000 | 32000 | 40000 |
| 2科目 | 40000 | 56000 | 72000 |
| 3科目 | 48000 | 72000 | 96000 |

授業料（分割×4ヶ月）

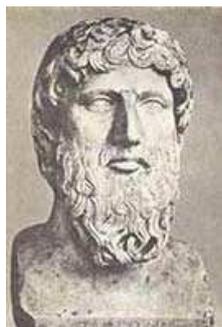
| 受講数
(一人) | 小学生 | 中学生 | 高校・一般 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 1科目 | 6000 | 8000 | 10000 |
| 2科目 | 10000 | 14000 | 18000 |
| 3科目 | 12000 | 18000 | 24000 |

または
or

お振込先（恐れ入りますが、振込み手数料はご負担下さい）

京都中央信用金庫 錦林支店 普通預金 2217927 口座名義：学校法人北白川学園 理事長 山下太郎

日本語の読み書き



『ことば』クラスの中学生・高校生向けである、『日本語の読み書き』は随時生徒を募集しています。体験無料ですので、ご興味のある中学生、高校生の方は、ぜひ一度ご参加ください。

中学生（*曜日） pm 6 : 40 ~ 8 : 00
 高校生 火曜日 pm 6 : 40 ~ 8 : 00

* 中学生のクラスの曜日・時間帯はご相談に応じます。

中学生・高校生向けの『ことば』のクラス、それが『日本語の読み書き』です。(1) 文章を正確に読む練習(読解) (2) 自分の意見を文章によって表現する練習(小論文) (3) 意見交換する練習(対話)を中心の課題とします。実際には一人一人のお子さんと対話しながら、ふさわしいテーマを決め、読む本、書く内容を選んでいきます。

自分の考えを文章によって表現する練習は、生徒が表現した一つひとつの文章を大事に見守ろうとする先生との、きめ細かいやりとりによって実現されるものです。このクラスではマン・ツー・マンに近い形で一人一人の言葉を大切に、表現の喜びを共有したいと考えています。

「山の学校」冬学期生・募集中!

冬学期 12月3日~3月23日 (各クラス5名まで)

平成16年度の時間割(冬学期)

* 秋学期より10分早くに時間を変更しています

| | 4:10-5:10 | 5:20-6:20* | 6:40-8:00 | 8:10-9:30 |
|---|------------------------------|------------|--------------------------------|--|
| 火 | ことば高学年A
かず中級 | ことば高学年B | 小6・英語の基本
日本語の読み書き
(高1~3) | 中1・英語の基本
英語の読み書き
(高1~3)
数の世界(中・高) |
| 水 | ことば低学年
ことば中学年 | | | ラテン語講読
(キケロ) |
| 木 | かず初級
かず上級 | | 中2・英語の基本
数と自然(高1~3) | 中2・数の基本
ラテン語入門 |
| 金 | やまびこクラブ
(16:00~17:30 月1回) | | 青春ライブ授業!
(19:00~20:30 月1回) | ラテン語講読
(マルティアリス) |

小学生の部

『ことば』 低学年(1・2年) 山下一郎
 中学年(3・4年) 宇梶卓
 高学年AB(5・6年) 某
 『しぜん』 低学年(1・2年) *山下太郎
 高学年(3~6年) *山下育子
 『かず』 初級(1・2年目安) 宇梶卓/山下太郎(隔週制)
 中級(3・4年目安) 福西亮馬
 上級(5・6年目安) 宇梶卓 / 福西亮馬(隔週制)
 (*「しぜん」は冬学期休講。春学期から開講します)

講師が「—」のクラスは、希望者を5名まで受け付けます。希望者がいる時点から、上記の講師たちによる新しい授業が展開されます。

中学生・高校生(一般)の部

『日本語の読み書き』 中(1~3) —
 『英語の基本』 小6 Fujita
 中1 Fujita
 中2 山下太郎
 中3 —
 『数の基本』 中1 —
 中2 下村昭彦
 中3 —

『日本語の読み書き』 高(1~3) —
 『英語の読み書き』 高(1~3) Fujita
 『数と自然』 高(1~3) 下村昭彦
 『数の世界』 中・高 福西亮馬
 『ラテン語入門』 一般 山下太郎
 『ラテン語講読』 一般 山下太郎

「山の学校」カレンダー

| 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ しぜん(小・低学年) ○ ことば(小・高学年) ○ かず(小・中級) ○ 中1英語の基本 ○ 英語の読み書き(高校) ○ 数の世界(中・高) | <ul style="list-style-type: none"> ○ ことば(小・低学年) ○ ことば(小・中学年) ○ ラテン語講読 | <ul style="list-style-type: none"> ○ かず(小・初級) ○ かず(小・上級) ○ 中2英語の基本 ○ 中2数の基本 ○ 数と自然(高校) ○ ラテン語入門 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ラテン語講読 |
| (11/30)○ | 1○ | 2○ | 3○ |
| 秋学期最終日 | | | 冬学期開始 |
| 7○ | 8○ | 9○ | 10○ |
| 14○ | 15○ | 16○ | 17○ |
| | | | 山びこクラブ
Pm4:00~5:00 |
| 21○
(台風の振替) | 22○ | 23休 | 24休 |

12月

冬休み (12月23日~1月5日)

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 4休 | 5休 | 6○ | 7○ |
| 11○ | 12○ | 13○ | 14○ |

1月

『声』 no.11 某

—「ことば」クラス

このあいだのKくんの授業では、福沢諭吉の『学問のすゝめ』第二編の端書を読みました。

「今日読むのは学問のすゝめ」と言ったら、すぐに「福沢諭吉！」と元気な声が返ってきました。

慣れない旧かな正字体の漢字にとりどころつまづきながらですが、ずいぶん上手に音読できました。この本の初版刊行直後は明治時代、それも文字の読めない人がまだ多かった時代です。つまり、この本は多くの人が誰か文字の読めるひとが音読したものを「音声として」聴いたのだと考えられるのです。Kくんが音読しているのを傍で聴いて、非常に雄弁に聞こえるのはきっとそのせいなのでしょう。

そのなかには「文字を読むことのみを知て物事の道理を弁へざる者はこれを学者と云ふ可らず」という一文がありました。そのあとには「所謂論語よみの論語しらずとは即是なり」と続きます。

文字の一言一句を正確に読解するだけでなく、それを実際に社会的行為として行動にあらわすこと——これは簡単そうで実は相当に困難なことです。正確に読解することだけにとどまることは、いわば単に片言隻句に拘泥しているだけとも言えるのです。

僕自身にも警句としながら、また来週の授業の内容を考えていきたいと思えます。

追伸：

高校生の「日本語の読み書き」は、冬学期から古典をやることになりましたが、読む量が結構多いので受講生がもう2~3人いるとやりやすいなアなんて思っています(もちろんマンツーマン希望も歓迎)。「古典文法があやしい」とか「学校で読む古典のはつまんない」とか思っている高校生諸君、是非！

(ウェブログ・11月5日の記事)

ことばの散歩道

Q. () の中を想像してください。

『不思議』

私は不思議でたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

私は不思議でたまらない、
青い桑の葉たべている、
蚕が白くなることが。

私は不思議でたまらない、
だれもいじらぬ夕顔が、
ひとりではばり開くのが。

私は不思議でたまらない、
誰にきいても笑ってて、
() だ、ということが。

—金子みすず『空いろの帆』より

●こたえは「青春ライブ・レビュー」のページに！

「山の学校」のホットな情報はウェブログから！
<http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>